

マルコの福音書14:12-26 主の晩餐に見る神のご計画

マルコの福音書の学びを続けていますが、今日は14:12-26にあります最後の晩餐について見ていきます。イエスと弟子たちとの晩餐がどのようなものであったかについて、この絵のような様子を思い描くかもしれません（スクリーンにダビンチの最後の晩餐）。ですが、ダビンチの最後の晩餐がどれほど美しく意味ある絵画であったとしても、この食事が本当の意味でどれほど感動的で美しいものであったかを描き出すことはできません。死なれる前の晩、イエスはその夜を最も近い12人の男たちと過ごすことを選ばれ、彼らが受け入れようとしないうちで自分の死について詳しく教えられました。もちろん、その一人であったユダは、自分がその夜のうちにイエスを裏切り、イエスを殺そうとしていた者らに引き渡すことを知っていました。他の福音書によれば、彼は主の晩餐がイエスによって定められる前にその場を去りましたが、食事が始まった時にはその場にいました。この食事のすべてが、神の被造物である人々を罪から救うという神のご計画を指し示していました。まず、食事の準備の中に神のご計画を見ることができます。12節から16節までを読みましょう。「種なしパンの祭りの最初の日、すなわち、過越の子羊を屠る日、弟子たちはイエスに言った。「過越の食事ができるように、私たちは、どこへ行って用意をしましょうか。」 13 イエスは、こう言って弟子のうち二人を遣わされた。「都に入りなさい。すると、水がめを運んでいる人に出会います。その人について行きなさい。 14 そして、彼が入って行く家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする、わたしの客間はどこかと先生が言っております』と言いなさい。 15 すると、その主人自ら、席が整えられて用意のできた二階の大広間を見せてくれます。そこでわたしたちのために用意をしなさい。」 16 弟子たちが出かけて行って都に入ると、イエスが彼らに言われたとおりであった。それで、彼らは過越の用意をした。」

伝承と長く受け入れられてきた考えによると、それは木曜日の夜のことで、ユダヤの金曜日の始まりであり、過ぎ越しの祭りの日でもありました。ですが、ヨハネの福音書では、最後の晩餐は過ぎ越しの祭りの当日ではなく、その準備の日である水曜日の夜であったとされています。どちらの言い分ももっともに思われますが、これが過ぎ越しの祭りの食事か、あるいは過ぎ越しの祭りと同じ要素を含む食事のいずれかであったということです。ここで重要なのは、最後の晩餐の準備において、この部屋を整えるためにイエスが弟子たちに伝えたことが起こったということです。イエスは秘かにこの部屋の準備をすることもできたでしょうが、何人もいたであろう水がめを運んでいる人、という漠然とした指示でさえ、イエスによる事前の計画ということよりも深い真実を示しています。そしてむしろ、聖霊がすべてを前もって備えられた、神の主権的なご計画を指し示しているように思われます。私たちの身代わりとなって十字架で死ぬために、御子イエス・キリストをお遣わしになった神の救いのご計画は、神にとって二番煎じの思いつきなどではありませんでした。イエスがこの部屋に来られ、弟子たちと一夜を過ごされた後、十字架にかけられることを含め、神は私たちが創造される前から、人間の罪の始まりの時から神が語ってこられたすべてのことが成就する歴史の筋書きを既にご計画されていました。

そして、そのご計画が神によって永遠に作られたとき、イエスに最も近い弟子たちの中から裏切り者が出ることも含まれていました。つまり、その裏切りさえも神のご計画の中にあっただけです。食事が始まった後、最初にイエスが指摘したのは、ご自分の死は親しい友の裏切りによってもたらされるということでした。続けて17-21節を読みましょう。「17 夕方になって、イエスは十二人と一緒にそこに来られた。 18 そして、彼らが席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ります。」 19 弟子たちは悲しくなり、次々にイエスに言い始めた。「まさか私ではないでしょう。」 20 イエスは言われた。「十二人の一人で、わたしと一緒に手を鉢に浸している者です。 21 人の子は、自分について書かれているとおり、去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわいです。そういう人は、生まれて来なければよかったのです。」」この個所に記されている内容は過ぎ越しの食事のようです。唯一奇妙なことは、子羊が出てこないことです。このことから、これは本当の過ぎ越しの食事ではなく、過ぎ越しの

要素を取り入れた前日の食事だと考える学者もいます。ここに過越しの食事のすべての要素が見られるのではなく、重要な部分のみです。マルコの福音書で語られている、この食事についてまず重要な点は、イエスの弟子たちの中に裏切り者がいることが明らかにされたことです。過越しの食事の中で、種なしパンを薬草のソースあるいは鉢に浸す場面がありました。イエスはそのことを用いてご自分を裏切る者を示されました。ヨハネの福音書では、イエスがユダを裏切り者として具体的に示したことを記しています。ヨハネの福音書13:26にはこうあります。「26 イエスは答えられた。「わたしがパン切れを浸して与える者が、その人です。」それからイエスはパン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられた。」

これを読むと、弟子たちは裏切り者が誰なのかすぐに気づけなかったのだらうと思われるかもしれませんが、もしこれが過越しの食事であったなら、あるいは過越しの食事の要素があったとしたら、この13人以上にもっと多くの人と一緒にいたはずで、女性もいたでしょう。実際、十字架刑の際に女性たちがいたことが分かっていますから、十字架にイエスが架かれるまでずっと、弟子たちと一緒に女性たちもいたと思われまゝです。過越しの食事の際には家族全員、親せきや、時には隣人までも集まるのが普通でした。子どもたちだっていたかも知れません。過越しの食事は、まず子どもが立ち上がり、父親か食事を取り仕切る者に、なぜ過越しの祭りを祝うのかを尋ねることから始まるのが常でした。そして、食事を取り仕切る者は、モーセがイスラエルの民をエジプトから導き出した話をするのです。そのため、とても騒がしく賑やかだったことでしょう。もちろん彼らはイエスの話に耳を傾けてはいたでしょうが、共にパンを鉢に浸したり、浸したパンを他の人に回したりといったことが、ほとんど誰にも気づかれることなく起こり得たことでしょう。また、弟子たちは互いを信頼しあっていました。自分たちの誰かがイエスを裏切るなどとは考えられなかったでしょう。それは、この知らせに対する彼らの強い感情的な反応にも表れています。「弟子たちは悲しくなり」という箇所が使われている悲しみを表す言葉は、マルコの福音書で2度しか用いられておらず、その2度ともがイエスの信頼を裏切ることについて記されています。イエスに従う者であれば、悲しみの時でさえもその歩みの中に喜びがあります。真の悲しみや嘆きは、私たちがイエスに従えなかったときにやってきます。自分たちの仲間の一人がイエスを裏切るという考えは、彼らに悲しみをもたらしました。この順序を私たちは多くの場合間違えてしまいます。私たちは、イエスに従うのをやめれば、クリスチャンであることを黙っていれば、人生における苦しみはずっと減るだらうと考えてしまいます。ですが、そうした決断はより大きな喜びにではなく、むしろ悲しみにつながります。この世に本当の悲しみがないわけではありません。確かに悲しみはあります。たとえ信者であったとしてもです。ですが、キリストに従う者にとっては、人生において当然最も悲しい時にでさえ、希望の一端があるのです。1テサロニケ4:13は死についてこう語っています。「13 眠っている人たちについては、兄弟たち、あなたがたに知らずにいてほしくありません。あなたがたが、望みのない他の人々のように悲しまないためです。」この個所で弟子たちが悲しんだことを見ることは大切です。それは、(ユダを除いて)弟子たちが、絶対にイエスを裏切らないと確信している事実を浮き彫りにしているからです。最後の晩餐について記したこの個所は、一つの裏切りではなく、実際には二つの裏切りの間にあります。後に見るように、一人の弟子がイエスを裏切って死に至らしめましたが、全ての弟子がイエスが捕らえられた後、同じ結末を避けようとイエスの元から離れ、逃げ出しました。けれど、それをイエスは驚かれませんでした。ヨハネの福音書1章に記されているように、世の初めから父と共におられ、その言葉によって世界を創造された御子なる神イエスは、ご自分が裏切られることも、その裏切り者が誰であるかも知っておられました。それでも、ユダを呼ばれ、ユダを愛され、ユダがご自分を敵に引き渡すという最もひどい方法で拒むことを止められませんでした。それは神にはご計画があり、この食事が神のご計画を示すものだったからです。22-25節を読みましょう。「22 さて、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」23 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、彼らにお与えになった。彼らはみなその杯から飲んだ。24 イエスは彼らに言われた。「これは、多くの人のために流される、わたしの契約の血です。25 まことに、あなたがたに言います。神の国で新しく飲むその日まで、わたし

がぶどうの実からできた物を飲むことは、もはや決してありません。」」繰り返しになります
が、これが伝統的な過越しの食事、あるいは過越しの食事のようなものであったのであれば、食
事の中で食卓を取り仕切る者、ここではイエスが、種なしのパンであるマツアを取り上げて
「これは悩みのパンである」と宣言する場面があったはずで、イエスはそれを「これは私の体
である」と変更し、あるいは付け加えられました。なんと痛ましい言葉でしょうか。主の体は、
種なしパンが象徴する何かを成すために、最大の苦難を耐え忍ばれるのです。先週の説教で、種
なしのパンが使われたのは、過越しの祭りがユダヤ人が家から酵母や発酵を促すものを取り除く
清めの時と結びついてきたためだとお話ししたのを覚えておられるでしょうか。酵母は罪を象徴
していて、人々は神の民から罪を取り除くことを示したのです。イエスは苦しみと罪の除きを示
す種なしパンを取り上げ、「これは私の体です」と言われました。それからぶどう酒です。食事
の際には4つのぶどう酒が用意され、それぞれに祝福が捧げられました。最初の杯は聖化の杯と
呼ばれ、「わたしはあなたがたをエジプト人の下の苦難から救い出す」と人々に思い起こさせま
した。2つ目の杯は解放の杯で、「わたしがあなたがたをエジプト人の束縛から救い出す」と
人々に思い起こさせました。3つ目の杯は贖いの杯で、「わたしは伸ばした腕であなたがたを贖
う」と言われました。最後に4つ目の杯である賛美の杯が捧げられ、「わたしはあなたがたをわ
たしの民とする」と人々に思い起こさせました。イエスはそれらの杯をご自分の血と等しくみな
され、「これは、多くの人のために流される、わたしの契約の血です。」と言われたのです。私
たちを聖い者とし、聖化を与えてくださるのは、キリストが流された血です。私たちを罪から救
い出すのは、キリストが流された血です。キリストの死を通して私たちの救いを可能にし、贖
いをもたらしてくださるのは、キリストが流された血です。神の養子とされ、神を賛美する理由を
与えてくれるのは、キリストが流された血です。キリストの血潮によって私たちは神の民の一人
とされるのです。この食事の中に私たちが見いだすべき3つの真理があります。一つ目は、この
食卓がイエスの犠牲を記念するために定められたということです。イエスはこの言葉を語られた
時、肉体をもって存在しておられました。イエスがこれらの言葉を語られたとき、パンとぶどう
酒が霊的にイエスの肉と血そのものになったわけではありません。今日、ローマ・カトリック教
会とほとんどの正教会の教派は、化体説という教義により、この言葉を文字通りの意味にとらえ
ようとします。カトリックや正教会の司祭が「わたしの体、わたしの血」という言葉を語ると
き、パンとぶどう酒が変化し、キリストの体と血になると信じています。イエスはこの時、文字
通り肉体をもってここにおられたのであり、そうした教えが真実ではないことを示す最も明確な
証拠の一つです。さらに、聖書はヘブル人への手紙10:10には「このみこころにしたがって、イ
エス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちが聖なるものとされて
います。」とあります。カトリック教会のミサで行われているように、主の晩餐に与るたびに私
たちがキリストを捧げるのではありません。私たちがこのことを思い起こすために行っている
のであって、実際に再びいけにえを捧げているのではありません。二つ目は、イエスが旧約聖書に
描かれていること全てを成就されるということです。思い出してください。この食卓に含まれる
個々のものはイスラエルの民をエジプトから救い出すために捧げられた子羊のいけにえと戸口に
塗られた血を覚えるためのものです。ユダヤ人が2000年の歴史の中で経験したすべてのこと、
エジプトよりも大きな罪の奴隷状態から救いをもたらすメシアに関する預言とそれを描写するす
べてのことがイエスに在って成就しました。そしてそれが成就したのは、3つ目の真理である、
イエスの死が新しくより良い契約を定めたからということです。なぜそれが重要なのでしょうか。
イエスの犠牲だけに焦点を当て、イエスが語られた契約に関する難しい神学的な話を避けるこ
とは簡単です。ですが、契約は聖書が語る贖いの物語を構成するものです。アダムの墮落以来、
人が契約を守ることがまったくできないことを示してきた一連の契約と、人であるイエス・キリ
ストにおいてそれらの契約を成就するという契約を守られる神の栄光を通して、神は人類とすべ
ての被造物に影響を及ぼしてきた罪からこの世を贖うことを選ばれました。スティーブン・ウェ
ルムは、新約を次のように表現しています。「新しい契約とは、私たちの主イエス・キリスト
が、その生涯、死、復活、そして神の右の座に栄光のうちにあげられたことによって制定された
契約である。それまでのすべての契約が様々な形でこれにつながっていて、この契約を予見する
ものであったという意味で、ある意味この契約は頂点に立つ契約とみなされるべきである。他の

契約と同様に、この契約も、ご自分のために民を救うという三位一体の神のご計画の一部であるものの、創世記3：15の最初の約束に遡って、神が約束されたすべてのこと、そして旧約聖書で預言され、待ち望まれてきたすべてのことが、今まさに成就した契約なのである。」創世記3：15とメシアの約束は、アダムの契約の一部です。つまり、イエスご自身が、私たちが主の晩餐に与るとき、他のすべての契約を成就してくださった契約を守る神を思い起こすと語られているのです。人類はエデンの園を持っていましたが、罪のゆえにそれを保つことができませんでした。イスラエルという神の民は、誰も守ることができない律法を与えられたために土地と王を失いました。ですが、イエスはエデンの園の契約を完ぺきに成就されました。旧約聖書に定められた神の律法を完ぺきに成就されました。その唯一の目的は、イエス・キリストを通して私たちすべてがその一部となる新しい契約を定めるためです。この食事で過越しの子羊について触れられていないことは、曜日的に重要かもしれないとお話ししたのを覚えておられるでしょうか。子羊について触れられていないことにはもっと大きな意味があります。実際にはこの食卓には過越しの子羊がありました。それは、洗礼者ヨハネがヨハネの福音書1:29で「世の罪を取り除く神の子羊。」と認めた、イエスご自身でした。新しいアダム、より素晴らしいアブラハム、モーゼ、ダビデは、神がそれらの人たちと結ばれた契約を成就させ、十字架にかかり、私たちの罪のためにいけにえとして死なれました。そして、1コリント11:26が示しているように、私たちはこのパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。今朝、この食卓に皆さんを招きたいと思います。ここで私たちは、贖いのために完全ないけにえを必要とする私たちの罪と、その犠牲を払ってくださった私たちの主イエス・キリストを覚えるのです。もしあなたが罪を悔い改め、イエス・キリストを主であり救い主であると信じ、イエスに従ってバプテスマを受けておられるならば、今朝共にイエスにある新しい契約を祝いましょう。もし、イエスを受け入れておられなかったり、バプテスマを受けておられない場合は、参加をご遠慮いただけますようお願いいたします。また、まだ準備ができていない子どもたちには、食卓に与らせないことによってこの食卓の大切さをお教えください。私が祈りました後、執事が礼拝堂の四隅でパンとジュースをお配りいたします。その後で皆で一緒に食卓に与ります。

(主の晩餐の後) この出来事にはもう一節あります。26節には「26 そして、賛美の歌を歌ってから、皆でオリーブ山へ出かけた。」とあります。食事の終わりはいつも讃美歌を歌うことで締めくくられました。今日の主の晩餐もそのようにして終えたいと思います。ご自分の御子、イエス・キリストの犠牲によって救いのご計画を成就された主権者なる神への賛美を共に歌うことによってです。お立ちくださいまして共に歌いましょう。

Mark 14:12-26 The last supper – picturing God’s plan

Today in our study through Mark, we come to the account of the Last Supper in Mark 14:12-26. This may be the picture you have of how this meal that Jesus shared with his disciples looked (**PICTURE OF DaVinci LAST SUPPER ON SCREEN**). But as beautiful and full of meaning as DaVinci’s Last Supper painting is, it can never capture just how poignant and beautiful this meal really was. This is the final night that Jesus has before his death, and he chooses to spend that night with the 12 men who are closest to him, teaching them more about his upcoming death they refuse to accept. Of course, one of those men, Judas, is the one who already knows he is betraying Jesus later that night over to the authorities seeking his death. The other gospels tell us that he leaves before the Lord’s Supper is instituted by Jesus, but he is there as the meal begins. And everything about this meal points to the sovereign divine plan of God to save people, his creatures, from their sin. **We see that first in the preparation for the meal that shows God’s plan.** Let’s begin reading at verse 12 and we will read to verse 16. ¹²And on the first day of Unleavened Bread, when they sacrificed the Passover lamb, his disciples said to him, “Where will you have us go and prepare for you to eat the Passover?” ¹³And he sent two of his disciples and said to them, “Go into the city, and a man carrying a jar of water will meet you. Follow him, ¹⁴and wherever he enters, say to the master of the house, ‘The Teacher says, Where is my guest room, where I may eat the Passover with my disciples?’ ¹⁵And he will show you a large upper room furnished and ready; there prepare for us.” ¹⁶And the disciples set out and went to the city and found it just as he had told them, and they prepared the Passover.

Tradition and the long accepted view tells us this is Thursday night, which would have been the beginning of the Jewish Friday and also the day of the Passover. But the gospel according to John seems to place the Last Supper on the day of preparation not the actual day of Passover, moving it to Wednesday night. The arguments are pretty strong on both sides, but either this was a passover meal or one consumed earlier using most of the same elements of a passover meal. What is important to this part of the text in the preparation for the last supper is what Jesus tells his disciples will happen in order to facilitate getting this room ready. Jesus could have made secret arrangements for this room, but he sense of the language used here, even the vague description of a man carrying a jar of water, which there were likely many, points towards a deeper truth than pre-planning by Jesus. Instead, it seems that the Holy Spirit is pointing us to the sovereign plan of God in preparing everything in advance. God’s plan for our salvation by sending His son Jesus Christ to die on a cross in our place was not a secondary thought to God. From before he created us, God had already planned a timeline for history that would bring Jesus to this room to spend this night with his disciples before going to the cross in fulfillment of everything that God has said since the beginning of man’s sin.

And the when that plan was shaped in eternity by God, it included a betrayer who would come from the group of disciples closest to Jesus, which means that **even this betrayal shows God’s plan.** Jesus pointing out that his death would be facilitated by the betrayal of a close friend is what Jesus first turns to as the meal begins. Let’s continue with verse 17-21. ¹⁷And when it was evening, he came with the twelve.¹⁸And as they were reclining at table and eating, Jesus said, “Truly, I say to you, one of you will betray me, one who is eating with me.” ¹⁹They began to be sorrowful and to say to him one after another, “Is it I?” ²⁰He said to them, “It is one of the twelve, one who is dipping bread into the dish with me. ²¹For the Son of Man goes as it is written of him, but woe to that man by whom the Son of Man is betrayed! It would have been better for that man if he had not been born.” The details given in this text again show us a Passover meal. The is one odd thing here…we do not see a lamb. This leads some scholars to believe this is not a true Passover meal, but one eaten a

day before with elements of the passover. We do not see every aspect of the meal here; only the important parts. The first important aspect of this meal as related by Mark is the identification of a betrayer among Jesus's disciples. There would have been a point in the Passover meal where unleavened bread was dipped into a sauce or bowl of bitter herbs. Jesus uses this to identify the one who would betray him. The gospel of John makes it clear that Jesus went so far as to specifically point out Judas as the betrayer. [John 13:26](#) says, [26 Jesus answered, "It is he to whom I will give this morsel of bread when I have dipped it." So when he had dipped the morsel, he gave it to Judas, the son of Simon Iscariot.](#)

Now, when we read this it may seem like the disciples must have been really unaware to not quickly realize who the betrayer was, but if this was a Passover meal or functioning as a Passover meal, there would have likely been more there than just these 13 men. There would have been women, and in fact given what we know about women who were present at the crucifixion, there likely were women with the group of disciples at this time and perhaps all the way through to the cross. Entire families, extended families and even neighbors usually gathered for this meal. It was possible that there were even children there. The Passover meal traditionally began with a child standing up and asking the Father or head of the meal why they were celebrating Passover. The one leading the meal would then retell the story of Moses leading the Israelites out of Egypt. So, there was probably a lot of commotion and noise. Of course they were listening to Jesus, but dipping bread together or even giving a piece of dipped bread to another could have happened with almost no one noticing. Plus, these disciples trusted each other. It was unthinkable that one of them would betray Jesus. We see this in the strong emotional reaction they had to this news.

The word for grief or sorrow which we see here as **"they began to be sorrowful..."** is only used twice in the book of Mark and both times it is speaking of failing Jesus. As followers of Jesus, there is joy in the journey even during times of sorrow. True grief and sadness comes when we fail to follow Jesus. This idea of one of their number failing Jesus brought grief to them. We have this order all mixed up in our minds many times. We think life would be so much less painful if I just quit following Jesus, if I just kept silent about being a Christian. But that decision does not lead to greater joy, but to grief. It is not that there is no real sorrow in this world. There certainly is...even for believers. But even the most naturally sorrowful times in our lives have an element of hope for those who follow Christ.

[1 Thessalonians 4:13](#) speaks about death in these terms. [13 But we do not want you to be uninformed, brothers, about those who are asleep, that you may not grieve as others do who have no hope.](#) It is important to see their grief here, because it highlights the fact that the disciples (other than Judas) are convinced they could never deny Jesus. But this section of the passage that deals with the last supper is sandwiched between not one betrayal, but really two. As we will see later, although one disciple betrays him to death, all the disciples run away from Jesus and defect from him after his arrest so they avoid the same outcome. But none of this will surprise Jesus. As God the Son who was with the Father from before time and created the world through his very words as John 1 tells us, he knew he would be betrayed and he knew who that betrayer was. And still, he called Judas, he loved Judas and he didn't stop Judas from rejecting him in the deepest way by betraying him to his enemies, because God had a plan, and **the meal itself would show God's plan.**

Let's read verses 22-25. [22 And as they were eating, he took bread, and after blessing it broke it and gave it to them, and said, "Take; this is my body."](#) [23 And he took a cup, and when he had given thanks he gave it to them, and they all drank of it.](#) [24 And he said to them, "This is my blood of the^{\[a\]} covenant, which is poured out for many.](#) [25 Truly, I say to you, I will not drink again of the fruit of the vine until that day when I drink it new in the kingdom](#)

of God.” Once again, given the fact that this was a traditional passover meal or in place of that meal, there would have come a point in the meal that the master of the table, in this case Jesus, would have lifted the unleavened bread, the matzah, and said, “this is the bread of affliction.” Jesus changes that or possibly adds to it “**this is my body.**” What poignant words these are! His body would endure the greatest of affliction, the greatest suffering in order to do something that the unleavened bread represented. Remember from last week’s sermon, unleavened bread was used because the Passover was tied to a time of cleansing where the Jews would remove all yeast and leavening agents from their house. That leaven represented sin, and they were symbolically removing sin from the people of God. Jesus is lifting that unleavened bread associated with suffering and removal of sin and saying, “**this is my body...**”

Then there is the wine. There would have been four drinks of wine that were made during the meal, with specific blessings said for each one. The first one was called the Cup of Sanctification where the participants were reminded, “I will bring you out from under the burdens of the Egyptians.” The Second was the Cup of Deliverance where the participants were reminded, “I will rescue you from their bondage.” The third was the Cup of Redemption where it is spoken that “I will redeem you with an outstretched arm.” Finally, the Fourth cup, the Cup of Praise was offered and the people were reminded, “I will take you as My people.” Jesus equated those cups of wine to his blood, **This is my blood of the covenant, which is poured out for many.** It is the shed blood of Christ that brings about our Sanctification, God making us holy. It is the shed blood of Christ that brings about our deliverance from sin. It is the shed blood of Christ that brings about our Redemption, whereby God purchases our salvation through Christ’s death. It is the blood of Jesus Christ that gives us reason to praise God as we are adopted as God’s children...we are made one of his people, through that blood.

There are three primary truths that we should see in this meal. ***One, is that he institutes a meal that memorializes his sacrifice.*** Jesus was physically present when he said this words. The elements of bread and wine did not become his very flesh and blood spiritually as he spoke those words. Today, the Roman Catholic Church and most Orthodox denominations want to take those words to the extreme of literalism through a doctrine, called transubstantiation. When the Catholic or Orthodox priest says the words, my body and my blood over the elements they believe that a change takes place in bread and wine making them into the actual body and blood of Christ. Jesus was literally here at this point in the flesh which is one of the clearest ways to see that this teaching cannot be true. Additionally, the Bible tells us in [Hebrews 10:10](#) that “**we have been sanctified through the offering of the body of Jesus Christ once for all**” We do not keep resacrificing Christ in the Lord’s Supper each time we partake of it as seems to happening in the Mass of the Catholic Church. We do this in remembrance, not in reality of making the sacrifice again. ***Two, Jesus fulfills all the Old Testament pictures.*** Remember, each element of this meal is remembering the sacrifice of the lamb, the covering of blood on the door in order to deliver the people of Israel from Egypt. All of that, everything the Jews experienced in 2000 years of history, and all the prophecy and pictures of a Messiah who would save them from an even greater slavery than Egypt, the slavery of sin was fulfilled in Jesus. And it was fulfilled because number ***three, Jesus’s death establishes a new and better covenant.*** Why is this important? It would be easy to simply focus on Jesus’s sacrifice and skip the difficult theological conversation regarding the covenant that Jesus refers to. But covenants are what frame the story of redemption that the Bible lays out. God has chosen to bring about the redemption of this world from the sin that has affected humanity and all creation since the fall of Adam through a series of covenants that show the complete inability of humans

to uphold those covenants, and the glory of a covenant keeping God who brings those covenants to their fulfillment in the person of Jesus Christ. Stephen Wellum has described the New Covenant in this way, **The new covenant is the covenant which our Lord Jesus Christ has inaugurated by his life, death, resurrection, and glorious exaltation to the right hand of God. It must be viewed as the culminating covenant in the sense that all of the previous covenants have been leading to it and anticipating it, in a variety of ways. Like the other covenants, it is part of the one plan of the Triune God to save a people for himself, but ... it is the covenant which has now brought to fulfillment all that God promised and all that the OT anticipated and longed for, all the way back to the initial promise of Genesis 3:15.** Genesis 3:15 and the promise of a Messiah is part of the Adamic Covenant. So Jesus himself is declaring that when we eat the Lord's Supper we are reminded of a Covenant keeping God who fulfilled all the other covenants. Mankind had a Garden of Eden we couldn't keep because of our sin. The People of God as defined in the nation of Israel lost their land and their king because they were given a law none of us could keep. But Jesus fulfilled the requirements of the garden of Eden perfectly. He fulfilled the law of God as defined in the Old Testament perfectly, for one purpose- to establish a new Covenant that all of us become part of through Jesus Christ. Remember I mentioned that it might be significant for the day of the week that there is no mention of passover lamb at this meal? There is a greater significance in that omission. The truth was that there was a passover lamb at the meal. It was Jesus himself, who John the Baptist recognized in **John 1:29 to be "the lamb of God who takes away the sin of the world."** The new Adam, the better Abraham and Moses and David, who fulfilled the covenant God had made with those men went to a cross and died as the sacrifice for our sins. And every time we **eat this bread and drink the cup, [we] proclaim the Lord's death until he comes, as 1 Corinthians 11:26** tells us. So I invite you this morning to join us in this meal. Here we remind ourselves of our sin that needs a perfect sacrifice to be paid for and our Lord Jesus who made that sacrifice. If you have repented of your sin and trusted in Jesus Christ as your Lord and Savior and been baptized in obedience to him then please join us in celebrating our New Covenant in Jesus today. If you have not accepted Jesus or been baptized then I would ask you not to participate, or for children who are not ready, children teach the importance of this meal by not letting them participate. After I pray, the Deacons will serve the elements from the four corners of the sanctuary and we will eat and drink together. Let's Pray.

(After Communion) There is one final verse attached to this event. Verse 26 says ²⁶ **And when they had sung a hymn, they went out to the Mount of Olives.** The meal always ended with singing of hymns of praise. That is how we end our Lord's Supper meal today – by singing together a hymn of praise to our Sovereign God who brought his plan of salvation to pass in the sacrifice of His own son, Jesus Christ. Let's stand and sing together.